（十五日夕刊）
磐城新聞
休刊　大祭日第一第三日曜
定價　壹枚二錢、壹ケ月五十錢、郵税十錢
廣告料　二行五十錢（指定廿錢增）
發行兼編輯印刷人　遠沼龍輔
發行所　福島縣平町田町拾六　磐城新聞社　電話五六四番

哀れな犠牲者（上）

大江川みのる

兩親のために自己の一切を犠牲にして愛妻を離別しやうと決心した彼は今愛する彼女へ、最後の手紙を書くべく筆をとつた。

夜はふけて肌寒く時計は暗夜の寂寞を破つて十二時を打つた。

S子よ、何も彼も運命だと諦めて思ひ切つてくれね、俺も苦しい[illegible]に諦てくれと言はねばならぬ運命になつた、俺も實際苦しい、俺の現在の境遇を、察してくれ、そして過去の一ケ年は夢だつた、諦めてくれね夢だつたと思ひば幾らかは諦もつくだらうから

お前も諦むべく餘儀なくさせた俺の今の境遇は今更くり返さなくとも[illegible]には確と解つてゐる筈だ。S子よ、誰をもうらむことは出來ないのだ、二人は斯うなるべき運命のもとに生れて來てゐたんだから。只何も彼も運命とあきらめてしまへば。

×

弦まで書きつゞけて來たが遂に彼のペンもつ手は動かなくなつてしまつた、胸の中よりこみあげてくる悲しさにたね兼て彼は遂、ペンを投げ捨てゝ顏を枕、伏せシク／＼と泣き出した、いろ／＼の過去の追憶が走馬燈の如くに彼の腦裡に浮かんでは消え／＼してかすめて行つた。

×

妻と呼ばれて滿一年……彼は心から最愛の妻とし彼女を愛した、彼女も又たき夫として心から仕へた、まさか短い一ケ年に二人の幸福が盡き樣とは彼も彼女も……わからぬ身の知る由もなかつた。惠まれた幸福に二人はどんなに神に感謝したことであらう、そして永遠に斯ふした幸福は二人の身上に續くものと信じてゐたのだ。

それだのに～遂に二人のあの樂しかつたその幸福は果敢ない一夜の夢として今は木葉微塵に打ち碎かれてしまつた。破れたのではない、破られたのだ。而し絶對に恨む事の出來ない肉身の親に依つて……親なるが故に二人の苦しき胸の中は殊更に哀い、むしろ悲惱だつた「東京へ行かふ」いろ／＼と考へつめた揚句斯んなことを思つたこともあつた「東京へ」そうだ、S子はキット喜ぶことであらう……斯んなことを考へて一人微笑んだこともあつた。而し落ち付いて良く考へて見ると到底それは不可能に近い望みだつた「頑迷でも親だもの！」から思ふと自分が出て行つた後父がたへた身を田畑に運んで汗みどろになつて働いてゐる樣や母が毎日／＼不幸なその身の上を案じて泣いてゐる樣等、思ひ浮べては弱い彼は遂に「東京へ」の望みを捨てねばならなくなつたそして頑固な親をもつた身のかなしさを悲しむより外に仕方がなかつた。

彼としては絶對に父を恨むことも母をうらむことも出來なかつた父母も眞實に彼を愛してゐたから……時にその愛が結んだ盲目的……彼は常に泣くことが度……まつた。頑固と變屈と言……たからは一歩も後に退……な、犠性　父母の愛の中ッに育つた彼は日陰の生たなしこ、如きもの一あつた……されまでに愛しゐ……もかゝはらず、彼が泣きながら賴むにその言葉に耳……さら彼女を彼よりはなした兩親の心――無情といへば無情不思議とへば不思議なもあるかそれには斯うして現由があつた。

明日の吉凶　舊三月廿七日　新五月十六日

▲一白　輕卒に事を擧ぐるときは紛紏失敗を招くべし
▲二黑　滿足は退歩のもとゐと悟り心を緩むべからず
▲三碧　伸び惱みの苦勞多き日何事も自然を待つべし
▲四綠　現狀を維持し居れば自然好氣運に向ふべし
▲五黄　自重すれば自ら解決の曙光現れ來るべし
▲六白　運氣開發の大吉日にして入學名ひろめに吉
▲七赤　木の實が芽を出だし追ひ／＼と茂り行く如き吉日
▲八白　糸のもつれを解くが如く氣を永くかまふべき日
▲九紫　信義を守り輕卒を愼めば何事も成就

講談

闇に閃く男達

（88）　髙田涙川作　尾崎雪底畫

人間をかついで

正春は極度に激昂した

「さては堀内小源太め拙者の乘りこむを承知し拙者を殺害せんとたくらみたるに相違はない何條その方らの如き者に命をとらるゝ正春ならず無益の殺生は好まねど敵對いたせば是非がない一々切つて捨てるから左樣心得ろッ」

四邊をねめ廻して叫び前方よりくる一人を右の肩から乳の下へかけ斬り下げ横合より突き出す槍を引はずしざまへくりこませず唐竹わりに切り下げた。

「ソレッ各々方相手はなか／＼手ごわい油斷めさるなッ」

門弟一同は互に戒め合ヱイヤヤッ……と遠卷に掛聲するのみだ正春はその中を見廻すが小源太の姿は見えぬ不思議でもあるいづれに隱れをるかと注視を怠らぬへ一人の武士がヤッと一聲槍、つき出したこれをかわした正春は鎗のケラ首より切り落す相手の武士は驚いて逃ぐるを己れ逃がしはしならうかとをどりかゝつてうしろげさに切つて捨てるその腕のさえの美事さに殘る十三四名の武士は近寄るものもなくなつた。

「かかることにあたら時間をつぶしては大變思ふにアノ半弓をもつてゐる武士はこの中でも頭分と見ゆる彼をとつて押へその上にて堀内小源太の所在を尋ねて見れば或ひは分らぬこともあるまい」

正春はこう考へ前へ遊まんとする進まさせじとこれを遮る門弟の一人を大上段に切つて落し奧の方へ進む正春に乘りこまれては大變と矢庭に半弓をとり直さんとする所ををどりかゝつて半弓のつるを切り相手の逃げんとするをうしろより襟髮引つかみウーンッとばかりに引戻した大力の正春に引戻されてはたまらぬ、一刀ぬき放ちヤッと横に拂つた。

「エイッちよこ才な小冠者めツウヌこうしてくれる」といひ樣に正春はこの武士を肩にかつぎそのまゝ表へ悠然として出でんとするさうはさせじと門弟共が又もつき出す鎗ふすま逐へばちり引けば寄るとしばらくの間は正春の行くてを防いでいたが正春が面倒なりと勇を鼓してなぎ立つるため又も遠まきにまいたまゝついてくる勇氣ないドレこの間に引取らんものと右の武士を肩にかついだまゝ大道せましと足早め番町をさして歸つてくる。

「どうした／＼た腦ヶ賣り物がやつてきたやうだモシ／＼武家それはいくらでお賣りになりますか」

往來の人はこれを眺めこんなことをいふものもある

「オイ／＼喜助冗談ちやねわせ、人間を賣つてあるくやつがあるものかあれた大方身體でも惡く醫者へつれて行くところだらう」

「さうだらうかそれにしちやア、亂暴な擔ぎ樣だ、あの樣子では病人だつたら向ふへ行く迄には大抵往生してしまふであらう」

ワイ／＼いつてゐるを耳にもかけず正春は一生懸命やうやく番町平岡幹之進の屋敷へ戻る木挽町から番町までは可なり道程があるそれを人一人をかつぎ歩るいても相手が武士ゆゑに咎め立てする者もなかつた、現今なればどうして／＼こんなことできつこはない正春は平岡幹之進に委細を物語つた。

「それは先生どうも大變でございましたな、しかし別にたけがはなく重疊でござる、してこの上ご所存は……」

「左樣拙者察する堀内小源太はもはや風を喰つて道場を逃げうせしと存ずるよつてこれなる一人を人質につれ歸つた。この者を詮議し小源太の行方を知るつもりでござる。」

廣告

平町舊城跡
青沼醫院
電話四〇三番

小學生通學服と
女學生白洋傘

通學服　七八才用　一圓十錢
十才用　一圓二十錢
十三才用　一圓三十錢

女學生白洋傘　レース付　一圓三十錢
タツク入　一圓三十五錢
ヘリ取り　一圓四十五錢
レース付上　一圓九十錢

ツルヤ商店　平町　（電話百四番）

廣告

植田町
岡田炭鑛植田出張所　電話二十九番

石炭小賣販賣に就いて

當炭礦經營するに就いて植田町臺町に出張所を設置し地方販路を計畫しました所錦地有志家のお勵めに依りまして地方需用家の御便宜上一部小賣販賣を兼ねる事に致しました最も當出張所の本領として生産者より需用家への『主義』としました幾俵にても御注文次第左記價格を以て直接配達致させます。

（金）六十錢也　塊炭
ピク一俵代當大量需用家の用途に依り便宜と經濟の爲め種々選炭致させますから豫め御相談御注文を願ひます。

營業品目
絹糸、絹紡績
綿糸、染糸、組紐
漁網糸、人造絹糸
カタン糸、輸出用加工糸
眞綿、其他糸物一式

東京市日本橋區通油町
株式會社　藤掛商店
電話浪花三五一番　振替東京三三四〇番
糸界の羅針盤糸紐通報御一報次第直送

小店員募集
十五才以上十七八才迄　五名
小學校卒業程度御希望の方磐城新聞社御出で下さい。委細面談

平町紺屋町
吉田眼科醫院

國産品普及宣傳
抽籤附　大特賣
精工舍製腕時計セイコー

大懸賞額

賞品
一等　金壹百圓（復興債券）五十本
二等　金五十圓（同）百本
三等　金拾圓（同）二百本
四等　金五圓（同）五百本
五等　精工舍製ニツケル丸形机上時計（市價一圓八十錢）四萬九千百五十個
（一本も空籤なし）

賞金總額金拾萬貳千九百七拾圓也

特約店　會田時計店　平町四丁目（電話三六三番）

痔の最高内服藥　ダイサン錠
鼻のクスリ　チクノール錠
平町五丁目角
山野邊藥局

女中さん入用
御料理
平新田町
喜柳

良品廉賣に勝る商略なし
磐城平町五丁目
磐城セメント株式會社特約代理店
和洋銅鐵金物問屋
（久）釜屋商店
諸橋久太郎
電話九番　一三九番
振替貯口金座東京一〇九五六番
確實敏捷は（久）の生命なり

平町田町
高久病院
電話五一三番
醫學士　高久忠
新潟醫學士　赤羽清
藥劑士　佐竹菊雄
内科小兒科、
外科花柳病科、
耳鼻咽喉科、
レントゲン科

◆初夏の飲料
サッポロ
キリン　ビール
リボンシトロン
御注文次第直ちに配達いたします
平町四丁目平驛通り
銘酒　由良の助　瓶詰
出張販賣所
電話二〇七番

貸地廣告
平町郡役所より稅務署附近の新開地に一千餘坪の貸地があります、然かも完全な土盛でありますから流失其の他の憂ひ絶對になく商店、諸工場並に高級の住宅地として最もの適地を極ぐ安値にお貸しいたします
御希望の方は電話なり載けば社員が伺ひして親しく御相談に應じます
小名濱商事株式會社
平出張所
電話六〇三番　五四一番

「憶だゞし訪だ」 街頭の初夏
路行く人の袖も輕く 平町の流行界

平町地方は櫻が散つて間のないうちに樹々の梢はすつかり新緑をつけ人々の裝ひに夏らしさが見られるやうになつた、殊に

最近 平町市內に於て著るしく目立つて來たのは今までは玄人に多く着られたボイルにあつさり刺繡をした長襦袢の類が若い娘や夫人の間に用ひられて來た事で肉體の曲線を彌が上にも美ならしめる點に於て極めて有效なものであるからこうした流行の魁をしてゐるが信用ある商店によつて聞くとボイル刺繡をしたものでも半襦袢は二三圓から長もので七八圓、上中流の家庭の婦人の間に可成りに賣れる、それに近頃は子供も大人もコンビネーションといふシャツとズボンとが連なつてゐるものが旺に賣れる値段も子供もので一圓五六十錢から大人もので三圓五六十錢、輸入品で七八圓から十圓位まで帽子にいたつては今年は冠り年で

麥藁 一圓均一、支那麥と三圓とまり、概して云へば夏物の洋品では特筆すべきほどの新流行といふべきものは尠いが同じ麥藁でもツバ廣とか山高とか少しは年々違つてゐるようであるといつてゐるが從來入梅前から麥藁帽子を冠つたものであるが近頃では

相帽 を冠るもの多く麥帽は全盛時代から見ると三分の二位しか賣れぬそうである相帽ではウールで四五圓、フワーで六七圓からであると

から平劇場に於いて開催する事に決定したが當日は東京地方事務局の遊佐局長が臨席する筈で尙廿六日には**平町役場**に於いて本縣福島、若松、郡山、平及茨城縣水戸の九照會所聯合照會事務の打合會を開催すると

本郡下の 共濟會員
平地方獨立

本縣共濟會は今年度から福島、若松、郡山、平、白河の五地方に區分する事となつた結果去る五月一日平町役場書記花津文庫氏は同會平地方書記を命ぜられた尙平地方に屬する共濟委員は次の如くである

△共濟委員（平町）桐谷文平、渡邊則成、（大森勇）、青沼鉾太郎（夏井村）鈴木積善、（小名濱町）小野務平、磐崎村若松惣太郎（內郷村）大內民惡、四家又一、（四ツ倉町）新妻盛（植田町）長瀬米次 以上

局員が誤つて 貯金の過拂ひ
それを承知で返さず 平署に訴へらる

平町新川町郵便局員江尻喜作は飯野村大字上荒川馬喰坂本文惡（四〇）に對して平警察署に說諭方を願出たが內容は去る大正十五年二月十四日坂本は自分名義の貯金通帳を以つて新川町局から金百圓を

拂戻した が其の後仙臺遞信局で取調た結果同人所持の通帳に記載してある百六十圓中以前に於いて百五十圓を拂戻してある事判明したので合計九十圓の過拂となり取扱者の江尻が此れを立替へて置いた上坂本は五月の月賦を以つて江尻に金九十圓を返濟する約束を爲したが僅に金五圓を返濟したまゝ十數回に亘り江尻からの

督促に對して 更らに返濟する氣配も見えない處から此の願を提出したものであるが局員の過失を奇貨に百圓を詐取した事は明に詐欺橫領の意志があつたものと睨んだ平署では目下同人を嚴重取調中である

曾我氏祝賀
谷口樓に盛大に

平第一小學校長曾我直治氏奏任待遇祝賀會は平町十五日會其他主催となつて十五日午後六時より谷口樓に於て開催する事となつたが出席者は町議、町有志、教育關係者七十餘名

平町職業紹介所で 趣旨宣傳に努力
活動寫眞會を開いて 聯合の協議會

平町職業紹介所では打續く財界不況の影響に依つて續出する失業者、救濟、或は前途ある青少年の爲めに保護的紹介事業等に係員が汗だくの奮闘を續けて來たが未だ一般地方民は職業紹介所の門をくゞる事を一種の

恥辱と感じ 或は營利紹介の如く誤解してゐる者も少くないので常に職業紹介に對する一般理解を喚せしむるべく計劃を進めて來た結果職業思想の普及を目的とする講演會並に活動寫眞會を來る廿五日午後六時

試驗合格者

平署內で左記六名過般執行された本縣巡查部長並に警部考試々驗第一次試驗の合格者は十三日發表されたが平署に於ける合格者は次の如くである

△部長試驗持舘巡查、渡邊巡查、阿部巡查、小林巡查△警部考試佐藤部長、佐々木部長、小林巡查 以上

平町の納稅 上々の成績
財界好轉の兆

平町に於ける今年度前期納稅地租附加稅 納入成績は今十五日現在で總稅額三千九百七十三圓七十錢に對し三千三百七十七圓四十八錢即ち未納金額は僅に百五九十六圓二十二錢と言ふ近年見なかつた程の良好な納入成績を示してゐるが此れは當地方に於ける納稅思想の發達に伴ふ納稅組合の組織と更らに幾分財界の好轉に依るものと想像されてゐる尙未納者に對しては今明中に第一次の督促を發する筈であると

俄かに殖えて來た 年少者の失業
專ら保護方法を採るべく 石城地方の昨今

石城郡地方は就職難のため一般大人の失業者も多いが殊に最近に至つて少年の失業者が多い模樣でこれら失業の少年少女は遂に

不良少年 少女と變るものも決して少くないので警察當局並に社會事業家は協力して失業少年又は浮浪におちんとする少年少女に保護救濟をなすことになつた、何故近年少年の失業者が多いかと言ふと昨年七月に工業勞働者の最低年齡法が施行された其結果廣く工業全般に亘つて十二歲未滿の者は使役禁止せられ更に十二歲以上十四歲未滿の者でも尋常小學校を卒業せざる者即ち義務教育を終了せざる者は新に雇傭を禁止される事となつたためである

家庭の事 情上學校に入學も出來ず働かんとしても法律の禁止によつて就職も出來ぬ、いたいけない少年を調査して適當なる保護方策を講ずる筈である

大盜一味自白す
被害二十七件、約二千圓 四人組けふ送檢

平署の爲めに過日逮捕された四人組青年大盜一味の安田粂松（二八）津口敏（二三）小峯勝利（三〇）庄司千世志（一九）は其の後伊藤司法主任の手に依つて嚴重取調を續けた結果今十五日一切の取調が了し一件書類と共に送檢したが此奴等の犯罪件數は實に二十七件盜品は驚くなかれ九百六十七點此の被害金額千五百圓五十七錢と言ふ巨額に達してゐるが四人組の首謀者は津口敏で去る二月中、庄司千世志（一九）と相談の上磐崎村藤原炭礦の機械場から機械類數點を窃取したのに味をしめ以後四人組を組織して此の驚異すべき犯罪を爲すに至つたものであると

石城義勇館
若松へ移轉の運動

仙臺市にある石城郡在鄉軍人の出資になる石城義勇館を若松市に移轉するため社團法人を組織することになり十四日伏見平、中村泉兩町村長及び若松縣議上京內務省に認可促進の陳情を出した

セール ネル 帶側 平 龜田屋 電五七

柏木氏敘位

湯本町出身名古屋稅務監督局屬柏木諄氏は一日付を以て從七位に敘せられた

蓮沼氏上京

本社長蓮沼龍輪氏は昨十三日午前九時にて上京十八九日頃歸社の豫定

第三校敷地問題に 青年團飛び出す
公平な撰衡をして 町當局に進言

平町第三小學校新築敷地問題は縷報の如く南町組立町側で蹶起運動を續け町當局も困惑してゐるがこの紛爭を續けることは教育上にも面白くないとて同町各青年分團では夫れ〲右問題に就き某會を起し公平なる立場から斷定を下すべく栽槌小路分團に引續き白銀町分團も開催したがこれが調査の結果を町當局に具陳し然る後發表するといふが町當局では解決容易にせぬときは新築委員會にたいて投票によつて決定するに至るべく解決までは相當時日を要するものゝ如く見られ憂慮してゐる

平署高等後任

平署高等主任伊藤部長が警部補に昇任須賀川署次席に榮轉の後欠員中であつた平署高等主任は今十五日浪江署巡查部長橫地要氏が後任と決定した

傳說（三）
僧正を生埋めにして 藥王寺再興奇談 一鍬掛けの墓に殘る 草野村の物語

石城郡草野村大字下神谷字宿のきゆうた鄕社藥王寺の東り方に一鍬掛の墓といつて極めてロマンチツクの味はひ濃い物語りを秘めた墓がある墓石圓く高さ二尺周圍三尺一寸、文字が刻んであるが諸處損じて讀めないたゞ「本寺藥王寺祖僧正隆忠之墓從塚也姓者源氏六孫王之末葉下總守隆忠公實生平清胤朝臣義嫡孫也」と堅くるしい白文が左右に記し中央に僧正隆忠と大書されてある

が今大野藥王寺の延壽法錄の傳ふる處によれば時は明德應永の頃僧隆忠は僧正に任せられて藥王寺に住職となつてゐたがこれに時の郡主磐城朝義は僧某と交はり親しく僧某は宗門の野望深くつひに朝義にとり入つて巧言令色口說き立てたゞめ朝義も惑はされ名望人德ともに高い隆忠に迫害の手をのばしとう〱いや應なしに僧某を藥王寺の主に直してしまつた身に危險を感じた隆忠僧正は身一つをもつてのがれることが出來たが一方お坊ちやん育ちの朝義にとり入つてうま〱と後釜にすはつた僧某成り上り者の常として我物顏にお寺の大將を氣取つてゐる中たま〱大豪雨、大雷雨に襲はれてがらんは雷火の丸燒きとなり僧某はた寺の本室に威張つたまゝ震死してしまつた

お寺戀しさのあまり遠くにも去りやらず樣子如何にとうかゞつてゐた僧隆忠天災とはいへかうした事實を見せつけられてはさすがに溫厚な名知識も憤激の極「われ必す郡主の後嗣に生れ來てこの寺をたこさん」とどう〱穴をほつて生きながらその中に身を埋め往來の人をして一クワづゝの土をかけさせては生き埋めとなつてしまつた……星は移り時は去り世は朝義の孫清胤の時代となつたが夫婦の間に子がないためかなはぬ時の神だのみ人間の勝手な心は今も昔も同じこと八茲ケ岳藥師に祈願をこめたが靈感つひに現れて一男をあげることが出來た處が不思議にも右手に一文を握つてゐるので開いて見ればこは如何に隆忠とある幸ひそれを命名してチヨウよ花よと育てたが成長するにつれて深く像法を信じ物覺えのよいことは驚くばかりつひに藥王寺を再興したといはれてゐる。

かみくづ

◆新田町福清の秀奴サスガ豐臣家の末孫だけあつて秀の一字は有難い、尤も民間に下つてからトコトリ家と改めたとの說もある、鼻下長向きだといふから希望者は申込むべし、代金引換にて送附す、多數割引◆久本の玉子が大きなカモをとつた話は狩獵期中のことだがナアに爲めになるお客のことなんだよと打ち消してるのがあれば、イヤ確にカモに相違ない、それが葱を脊負つて來るか、どうかだが酒樽を脊負つてカモが來るといふ、だから玉子がからみつくので運の當然だと、バカに感心した男が床屋で話してた。

大和田醫院 電話一七〇番

懸賞標語綴り
「磐城新聞は讀者の味方」 應募一千四百二通に達す 當選者は左記二名

本紙が曩に創刊七週年記念として伏字探しの標語綴りを發表するや計劃の內容が頗る通俗平易にして本紙の讀者なれば老幼婦女何人と雖も參加應募し得る所謂大衆向きのものであつた爲發表直後の十一日第一便に翕然として八百五十餘の回答が入つたのを皮切りとして爾來十三日の締切り迄に遠近各方面から集つた回答は實に千四百二通の多數に上つた之れ本紙に對する讀者諸彥の深甚なる同情の反映で殊に感激に堪へざるは應募の回答中筆致其他から判斷し年少子女の渾身の努力によつたらしきもの少からざりし一事である、之等の回答に對して十四日午後二時から本社に於て本社員の外

東京朝日新聞記者 八代公行
いはらき新聞記者 柏木哲

の兩氏立會嚴密調査の上本社提示の標語『磐城新聞は讀者の味方』正解者三百二十一名を選んだが前記標語は古來行はれたる標語、俚諺歌俳等と異り全然本社に於ける創案に係るもので本社獨自の創意を以て一般讀者に臨み之れに對して所謂暗合せるもののみを以て正解とするは些か妥當を欠くではないかと云ふ柏木立會人の意見に基き前記以外更に標語の形体を備ふるものは之れを悉く正解とせねばならぬと云ふ事になりその結果前記正解三百二十一名の外『磐城新聞の讀者は味方』とせる二十三名を正解者に加へ合計三百四十一名の正解者を決定し極めて嚴正公平な抽籤方法を以て左記二名の當籤者を決定し直に當選通知狀を發した茲に多大の共鳴を以て本計劃を迎へられた讀者諸彥に對して深謝の意を表す次第であります

當籤者
平町材木町綿引淺吉方 富岡勇君
湯本町字天王寺 吉田芳之君

追而當籤者は本社よりの通知狀を持參出社あり次第懸賞々品を御渡し致します（但し午前十時より午後一時まで）

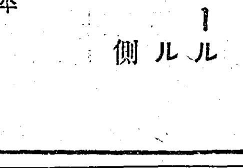
磐城新聞社

銘酒醉の鄕 都々逸の賣行

平館向大黑屋酒店が新設記念として試みた、銘酒醉の鄕、都々逸の特賣は其品質の良好なると價格の低廉なるとにより一般から非常な好評を以てむかへられたが同店からは更に御ひき各位の御晶負に報ゆる爲め五合買上每に謝恩券（二枚ニテ一合ト交換）を贈呈しつゝあるため其賣行益々良好にして店頭絕へず客位以て賑ひ注文頻繁にして配達間に合はざるノ盛況を呈しつゝありと

內科。外科。婦人科。小兒科。花柳病科。
磐城病院
入院隨時 平町田町本通り （電話一一四番）

丸形セイコー腕時計普及宣傳特賣
示時正確



賞品付セイコー腕時計大賣出し
期間昭和三年三月十五日より七月一日迄
一本も空籤なし
リボン及サック付金拾三圓均一
賞品
一等 金壹百圓（復興債券）五十本
二等 金五十圓（同）百本
三等 金拾圓（同）二百本
四等 金五圓（同）五百本
五等 精工舍製ニッケル丸形机上時計壹個 四萬九千餘個
賞金總額金拾萬貳千九百圓餘賣切ぬ內御早く御買上を乞ふ
特約發賣店 平町三丁目 大谷時計病院 電話一一九番

內科 小兒科 皮膚科 花柳科
平町舊城跡（城山）
青沼醫院
醫學士 青沼淡夫
電話四〇三番

長男秀夫儀去る四月十七日腸窒扶斯病に罹り入院加療中の處再度出血を起し益々身体衰弱に陷り且つ數日前より口中に水癌露れ到底手術の途なく本日午前三時半死亡致候生前中は何角御厚情を蒙り深く御禮申上候茲に謹で御通知申上候 敬具

追テ葬儀ハ郷里若松市ニ於テ執行可致候

昭和三年五月十三日

父 山田忠太郎
外親族一同